

プロジェクトマネジャー: 竹田 正幸 PM

(九州大学大学院 システム情報科学研究院 教授)

### 1. プロジェクト全体の概要

本プロジェクトにおいては、特に分野を定めず「将来の情報社会を支える新しい基盤ソフトウェア」の提案を公募し、15 件の応募の中から3件を採択した。プロジェクトの実施にあたっては、まず、1月12日にキックオフミーティングを東京都で開催した。3月7～8日に第1回中間報告会を京都にて開催した。また、5月30～31日には、第2回の中間報告会を東京都で開催した。これには、2007年度I期スーパークリエイターに認定した石野明氏、および2008年度上期スーパークリエイターの西川玲氏、長井啓友氏を招き、本プロジェクトでの経験談の披露や、3つの個別プロジェクトに対する鋭いコメントなどがあり、クリエイターらにとって大きな刺激となった。最後に、8月1日に加藤PMと合同の成果報告会を東京都にて開催した。2回の中間報告会は、おぎなりの発表会ではなく合宿形式で行い、文字どおり寝食を共にしながら長時間にわたって活発な議論を行い、それを開発に生かせるようにした。このため、短期間にすぐれた成果をあげることができた。

### 2. プロジェクト採択時の評価(全体)

審査に際しては、以下の基準を重視して評価を行った。

- (1) 独自技術を中心にしたソフトウェアであること、すなわち、単なる既存技術の寄せ集めではなく、開発するソフトウェアの特徴となるような独自技術を核に据えていること。
- (2) 全体の透明度が高いソフトウェアであること、すなわち、システム全体の構成が明瞭で、各コンポーネントごとに最適な要素技術を採用していること。
- (3) 一貫性のあるソフトウェアであること、すなわち、様々な機能を「あれば便利」と無秩序に組み込むのではなく、システム全体を貫く明確な思想のもとで、機能が統一的に組み込まれていること。「ビシッと1本スジの通ったソフトウェア」。

採択した3件は、いずれも、申請書が非常によく整理して書かれており、開発者の能力の高さ、開発計画の明晰さが見て取れた。すなわち、3件は申請時において上記の基準を満たしていたといえる。

### 3. プロジェクト終了時の評価

採択した3つのプロジェクトは、当初予定していた作業を完了し成果物を期限内に完成することができた。いずれも高い完成度を示しており、今後の展開が楽しみである。